

「小笠原の植物 (1)」

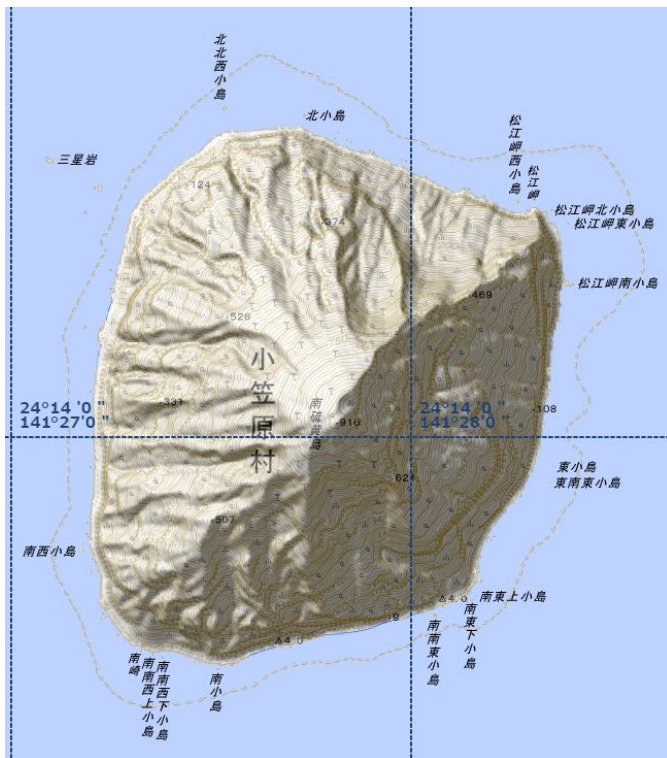
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「日本で最も多様な自然環境を有する都道府県は？」と問われたら、迷わず「東京都です」と答える。東京都には海拔 0 メートル以下の東京低地、平坦な武蔵野台地、多摩丘陵、奥多摩の山々等がある。標高 2000 メートルを超す「雲取山」は亜高山帯に属する。

一方、島嶼部に目を移すと、大島、三宅島など近年に大噴火を起こした活火山もある。更に南には亜熱帯気候の小笠原諸島、日本最東端の「南鳥島」に至っては熱帯気候に属する。



これは「南硫黄島 (みなみおうとう)」の地形図である。北緯 24° といえは「北回帰線」よりわずかに北に位置していることになる。夏至の正午には、太陽がほぼ天頂に見えることになる。地形図には「小笠原村」という表記があり、東京都の一部であることがわかる。もちろん私は行ったことがない。

南硫黄島は、NHKの「東京ロストワールド」という番組で紹介されていて、私は非常に興味を持った。絶海の火山島で、火山活動を終えてからは、完全に独立した生物進化を遂げた。人の上陸が厳しく規制されていて、外来種が全く入らなかったからだ。山頂付近

は常に雲に覆われ、気温も低いので「温帯雲霧林」という独特の環境になっているという。



「南硫黄島と島かげ」 / 画 ; C. Tanaka



同じ番組で、「嬬婦岩 (そうふがん)」という島も紹介されていた。鳥島と父島の間にあるのだが、何も無い海面に、いきなり高さ 100 メートル近い岩が立っている。古い海底火山の一部だという。上陸することすら難しく、動植物もほとんどいないという。



「夕暮れの嬬婦岩」 / 画 ; C. Tanaka

さすがにこのような島の植物はないが、小石川植物園には、小笠原産の植物もたくさん展示されている。